

	広島大学 農学分野
学部等の教育研究 組織の名称	生物生産学部（第1年次:90 第3年次:10） 大学院生物圏科学研究科（M:73 D:33）
沿 革	昭和24（1949）年 広島大学水畜産学部設置 昭和43（1968）年 大学院農学研究科修士課程設置 昭和54（1979）年 生物生産学部を設置（改組） 昭和60（1985）年 大学院生物圏科学研究科博士課程を設置（改組）
設置目的等	<p>生物生産学部の前身である水畜産学部（水産学科、畜産学科）は、水産、畜産業に関する教育、研究、地方産業の育成を図る目的で、新制広島大学が発足した昭和24年に設置された。</p> <p>昭和54年には、高度経済成長後の我が国における食料資源の安定確保の問題と食料生産に係る環境問題を解決するための技術開発等に関する研究を推進すること、更には食料・環境・バイオ分野における産業界からの技術者需要に対応して、幅広い基礎学力及び応用展開能力を身につけた人材を養成することを目的に水畜産学部を改組し、新たに生物生産学部を設置した。</p> <p>大学院生物圏科学研究科の前身である農学研究科は、昭和43年に水産・畜産・食品業界で幅広い視野に立って精深な学識を修め、高度な技能と研究能力、応用能力を身につけた人材を養成することを目的に設置された。</p> <p>昭和60年には、環境管理と資源利用に関する学際的な研究を進展させ、また広い視座から生物圏の危機に対処しうる高度な技術者、研究者を養成する目的で、大学院農学研究科修士課程と総合科学部を母体とする大学院環境科学研究科修士課程を改組し、生物圏科学研究科博士課程を設置した。</p> <p>平成14年には生物圏に係る先端的、独創的な研究を推進し、高度専門技術者と研究者を養成するために、生物圏共存科学専攻、生物資源開発学専攻、環境循環系制御学専攻に改組し、講座化された。</p> <p>平成18年に総合科学研究科の新設に伴って、高度な教育研究を一層推進し、地域貢献、産学連携も強化するために、生物資源科学専攻、生物機能開発学専攻、環境循環系制御学専攻からなる生物圏科学研究科に再編成した。</p>

強みや特色、
社会的な役割

広島大学は、瀬戸内海と中国地域における水産・畜産・食品科学領域の教育研究を起点に、学術の進展及び時代と社会の要請に応じて絶えず自己変革し、持続的な食料生産と環境保全、地域と国際社会への貢献を理念に掲げて、生命現象の解明、有用な生物機能の開発、生物生産の増大に関する教育研究に取り組み、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。

- 時代や地域・国際社会の変化に対応できる能力と科学技術者倫理を身につけ、食料・環境・応用生命科学の領域における高度な専門知識・技術を有する技術者育成を充実すると共に、先進的、独創的な研究を推進できる研究者育成の役割を果たす。
- 学士課程では、質保証を目指した体系的な到達目標型教育プログラムの下で、学内外の施設や生産現場及び海外での体験・実習等のフィールド教育を通して、汎用的能力と問題解決力を高めていく。大学院では、1単位科目をベースにしたカリキュラム編成により、多様な学生が自らの知識、能力、関心に応じて専門領域でステップアップし、また、英語による研究成果の発信や国際交流を通して研究力を高め国際性を涵養していく。これらの取り組みによる実績を生かし、グローバルに活躍できる農学系人材を育成する学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。
- 海洋生物の調査、免疫機能の応用、繁殖技術の革新的改良、食品の安全性と機能性の強化の特色ある研究や、強みを有する動植物科学、水産海洋科学、食品科学領域の先端的な研究実績を生かし、生物圏科学諸分野の研究を推進し、研究プロジェクトの推進や国内外研究機関との共同研究を通して、我が国及び世界的な学術研究の発展に寄与する。
- 国や地方自治体の審議会や評価委員会への参画、瀬戸内や中山間地の条件不利地域における鳥獣被害の調査や環境評価、食品開発等の地域貢献研究、企業・省庁との受託研究や共同研究、市民向け公開講座やサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業等の高大連携事業など社会貢献の実績を生かし、地域・国レベルでの農水産業や食品産業の振興と生涯教育に寄与する。
- 大学院入試における社会人特別選抜制度や社会人学生への修学支援の取り組み、国や地方自治体、民間企業との連携の実績を生かして社会人の学び直しを推進し、地域の農水産業、食品産業の発展に資する。